

## 「影の校長」ジェローム・D・デイヴィスの学問的業績

同志社の創立者は新島襄であるが、山本覚馬とジェローム・ディーン・デイヴィス（Jerome Dean Davis、1838～1910）の協力がなければ同志社英学校の開設は不可能であったろう。

デイヴィスはアメリカン・ボートから派遣された宣教師で、新島が1874年に帰国する3年前の1871年に来日した。神戸ステーションに着任し、伝道に携わるとともに、1872年には神戸宇治野に英語学校を、1874年には伝道者養成学校を設立し、教育活動にも取り組んだ。

デイヴィスが1873年に執筆した『真乃道を知るの近路』は、キリスト教を知らない日本人に向けて福音を平易な口語体で説き明かしたパンフレットで、そのような目的のために日本で印刷・配布されたプロテスタント・キリスト教のパンフレットとしては最古のものであると思われる。

キリスト教主義学校を設立するという新島の志に賛同し、1875年10月に京都に移り住み、11月29日の開校を迎えた。教員2名（新島とデイヴィス）と生徒8名からの出発で、生徒のうち6名はデイヴィスが神戸から引き連れて来たと言われている。

開校翌年の1876年、熊本洋学校出身の俊英たち30～40名が同志社英学校に入学した。彼らは「熊本バンド」と呼ばれる。同志社では彼らを教育するために「余科」（現在の神学部）を設置し、主に新島とデイヴィスが教授に当たった。

デイヴィスは（新島も）「牧師」であり、「学者」ではなかった。そんなデイヴィスに対し、熊本洋学校でL・L・ジェーンズから厳しい学問的訓練を受けていた熊本バンドのメンバーは授業毎に難問を浴びせ掛けた。特に「贖罪」の概念を巡ってはデイヴィスと熊本バンドの間に激しい議論が戦わされ、デイヴィスは答えに窮して授業を続けることができなくなり、休講するまでに至った。このとき、熊本バンドのメンバーは「デイヴィス先生は贖罪病に罹った」と快哉を叫んだそうである。

熊本バンドから投げ掛けられる難問に答えるため、デイヴィスは日夜、研究に勤しんだ。メンバーの一人・蔵原これひろ惟郭は言う。「（デイヴィス先生は）最初は同志社先生中、一番学問は劣って居たのであるが、先生が朝に夕の勉励奮闘は、間も無く先生を大学者と迄した。」

熊本バンドによって「鍛え上げられた」デイヴィスは、その後、『基督教証拠論』（1885）、『基督教之基本』（1890）、『神学之原理』（1891）をはじめ『来世論』『古代教会史』『基督教倫理学綱要』『自然神学』『贖罪論』『徳育に就て』『品性の建設』『神の性格』『基督の大なる約束』など数多くの著作を執筆し、キリスト教思想の普及に貢献した。

1890年1月23日に新島が死去すると、デイヴィスは直ちに *A Sketch of the Life of Rev. Joseph Hardy Neesima*（『新島襄の生涯の素描』）を執筆・出版した。新島の伝記としては最初のものであり、新島研究を志す者がまず読むべき資料である。

